

印旛沼のヒラタケ

高橋 勝雄

これより、諸先生方をはじめ皆さんもよく知っているヒラタケについて、次第に消失した様子を、小生の知る範囲で記載して参ります。

(1) 西印旛沼の状況について

私のヒラタケの城（採集場所）は西印旛沼です。周囲 10km が私の採集場で、沼の周囲の南側、ヤナギの原木が多く自然状態の中で出生するものも多い。少し硬いが食することは可能です。地表は沼の水草に囲まれ、ノイバラや藤つる、カラスウリ茎の中にヒラタケが沢山出生して居りました。

これから記載するヒラタケの発生は全く違ったものです。それは人の手が生み出した、ヒラタケの出生でもありました。

直径 50cm もあるヤナギの大木を近在の住民達が切り倒し、ヒラタケや、その他の菌類の育成に努めていた様でした。次第に湿った切枝に、何時しかやわらかなヒラタケの房が幾つも幾つも表れて居りました。湿った沼地の草に囲まれ、味は一段と優れて居りました。この様な人力の出生場所は約 4km もあり、時には採集を打ち切る事も何度かありました。

印旛沼東西南北約 10km 総べて採集可能なポイントでした。湿った水草にノイバラ、藤、カラスウリの茎に囲まれた天然の大きなヒラタケが出生しており、中には大きくなり過ぎ硬いので自然に返すこともありました。

しかし近年多量に採集出来たヒラタケも年々少なくなり何時しか全く、その姿が消えてしまいました。その原因は古き昔より親しまれた葛の茎や、外国より入り込んだ、

色々な雑草がヤナギの木を覆い、水滴や空気の流れを遮断して、次第に腐食し死に至らしめたものと思うのです。こうしてヒラタケの出生も次第にうすれて行ったのではないのでしょうか？

(2) 北印旛沼の状況について

北印旛沼には3ヶ所のヒラタケ出生場所がありました。

その中の一つ、秋の七草で有名な、日本古来の葛に覆われたヤナギの枯木に、北風の波しぶきや湿気が多量に葛の茎の間に落ち適度に与えられ、ヒラタケが大量に発生をしたと思われまます。その様な条件に育ったヒラタケは、幾重にも幾重にも分厚いヒダを重ね合い出生をしておりました。その量は約 8kg に及ぶものでした。

しかし翌年、胸の高まりを押えつつ生茂った葛の茎をかき分ければ、目をうたがう程のおどろきでした。そこには一枚のヒラタケの姿は無く腐敗した老木のみがあったのです。これも転生の運命かも知れません。

他に2ヶ所（1ヶ所は早く消失）、約3年、毎年毎年山のようなヒラタケが採集できました。この場所も、何時しか失われていきました。

其の他、自然の恵みとして4本のカキの木があり、リュック位（約 10kg）収穫出来る事もありました。自然を歩けば色々な物に出会う喜びがあるものです。皆さまも、末永く、自然と親んで下さい。